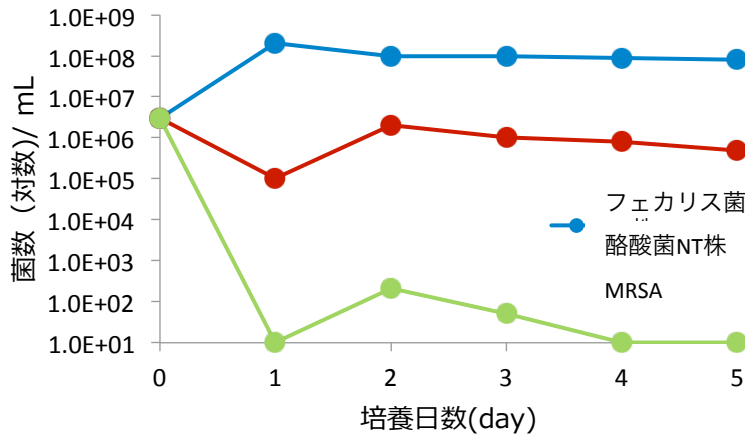


◆ フェカリス菌NT株と酪酸菌NT株の共存は
MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）の増殖を阻害する

メチシリン耐性*S. aureus*(MRSA)は、多くの抗菌剤に対して耐性を示し院内感染が問題となっている病原性のある菌です。MRSA感染症の治療にはバンコマイシンなどの抗生物質が投与されていますが、副作用の問題や投与量、投与期間を慎重に検討する必要があります。

日東のフェカリス菌NT株と酪酸菌NT株をMRSAと共存させたところ、MRSAに対して栄養源の競合利用に基づいた強い拮抗作用を示し、MRSAを排除することがわかりました。



プロバイオティクスのフェカリス菌NT株と酪酸菌NT株をMRSAと混合培養したところ、MRSAは急速に死滅し、培養1日で 10^2 cfu/mL以下に減少しました。また、培養を継続すると検出限界以下となり、栄養源に対する拮抗作用を示すことがわかりました。

実験内容

● 培地

成人の腸内容物模擬培地による嫌気連続培養

● 方法

フェカリス菌NT株と酪酸菌NT株をMRSAと混合培養し、培養5日後までそれぞれの菌数を測定しました。